

生物環境工学科

1 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

自然のシステムを活用し、生物資源を適切に利用した生産活動及びそれらの応用技術を多面的に学んで社会に貢献しようと強く思っている人を求めている。具体的には水・土の地域環境の修復・保全・再生、自然エネルギー開発や低炭素社会の構築技術、農産物の長期保存システム、環境と調和したエコ建築・エコ都市農村デザインなどに関心を持ち、生物資源活用領域に工学的な視点から挑戦しようとする強い意欲を持った人を求めている。

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、自然のシステムを活用し、生物資源を適切に利用した生産と、人間の生活環境と多様な動植物の生態系に配慮した共生環境の保全と創造など、その応用技術を多面的に学習させることを基本としている。それを達成に係する授業科目を1年次から4年次まで適正に配置し、かつ授業科目の流れを明示して、知識の習得目標が分かるように、カリキュラムを編成している。

3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科は、学科の教育研究上の目的に沿って設定した卒業要件を満たした者に学士(生物資源学)の学位を授与する。

なお、学位を授与するためには、特に以下の2項目を修得することが求められる。

- ① 生物資源生産、地域・地球環境保全、人間と自然・生物との持続的な共生環境の創造を基本として、「生物資源をめぐる人間活動がもたらす諸問題を解決していくための基本となる生物資源生産、生命、環境に関する科学の知識を修得し、それを応用できる能力。地域・地球環境の構成要素であり、資源となる土・水に関する科学の知識及びその応用である環境モニタリング・環境調和型応用技術を修得。地球環境に影響を及ぼさない生物資源の持続的生産の観点に立って、地域における生物資源生産基盤、生活基盤整備・開発・保全するための知識と技術を修得。ゼロ・エミッションの実現が可能となる生物資源を用いた循環型社会の形成に関わる知識を修得し、社会的要求に対応できる合意形成手法を修得し、エコロジカルなデザイン能力、さらに講義で修得した専門の知識の本質と技術化を実験または実習を通して体得し、得られた成果を的確にとりまとめる実践的な能力を身につけていること。
- ② 講義、実験、実習、演習で修得した知識、技術、推察力、洞察力、表現力、発表力などを総合的に活用して、多様な課題などを広い視野で解決しながら、開発・研究が進められる能力を身につけていること。